

あなたを待てば

田中 愛子

何かおどらされるようにして、祝贺、祝贺のうちに、元号が改まった。平成から令和へ。それゆえ時代が変わるのかどうかは分からないけれど、ものごとの始まりはものごとの終りであり、去りゆくものは美しい。平成の終りには「平成の〇〇」といった特集がテレビでも盛んに組まれた。平成の時代に活躍したスポーツ選手、ベストセラーとなった本、ヒットした曲……。そんな中で平成を特集しながらついでに昭和の時代までさかのぼった番組もあった。

ある世代の人なら「あなたを待てば」という一節を見ると「雨が降る」と続きがうかぶと思う。昭和三年のヒット曲「有楽町で逢いましょう」だ。この「待てば」の「ば」はとても含みのある、いとおいしい助詞である。

「ば」の用法は大きく二つに分けられ、そのうちのひとつがさらに三つに分かれると多くの文法の本に書いてある。今野寿美著『短歌のための文語文法入門』にも①仮定の意を示す、②原因・理由を示す、③偶然の状況を示す、④常

にそうなることを示す、の四つの用法が示されその用例として③は宮柊二の『山西省』の一首、

ひきよせて寄り添ふごとく刺ししかば声を立てなく
づをれて伏す

が、④は、和嶋勝利『雛罌粟の気圏』から、

ばさばさのご飯を食めば異国にても妻を思ふかかの水
加減

があげられている。「あなたを待てば」の「ば」も④であろう。あなたを待つときはいつも雨降りなのだ。歌は「濡れてこぬかと気にかかる」と続く。この歌の男性は恋人が雨に濡れないだろうかと気づかいをするやさしい人である。そして、いつも女性より早く来て待つ人だということもわかる。「ば」という助詞ひとつで、恋人を待つ人の心情や情景が表現されていて、とてもいとおいしい「ば」に思えてくるのだ。

待ち合わせには雨が似合うのか、「有楽町で逢いましょう」から十数年おいて南沙織もこう歌った。

「いつも雨降りなの 一人して待ち合わす時」(「ひと
かけらの純情」)

スマホでたやすく連絡がとれる現代では、もうすぐかしら、いまかしらと思うときめきはうすれてしまったかもしれないけれど、しずかな雨のなかで恋人を待つのは、いつの時代でも美しく尊いものと思えるのだ。